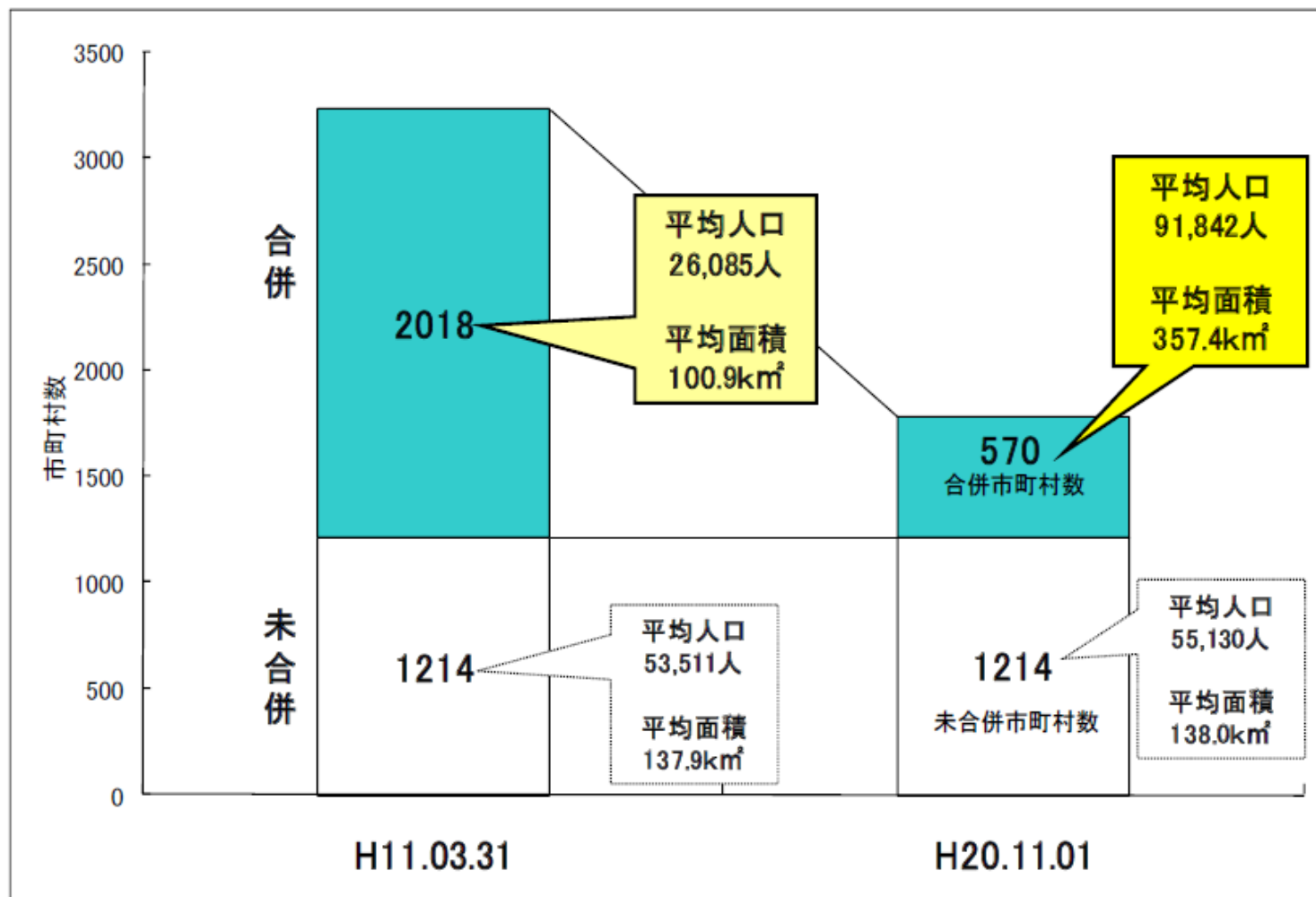


「平成の合併」の評価・検証・分析

平成20年6月

市町村の合併に関する研究会

合併市町村と未合併市町村の対比



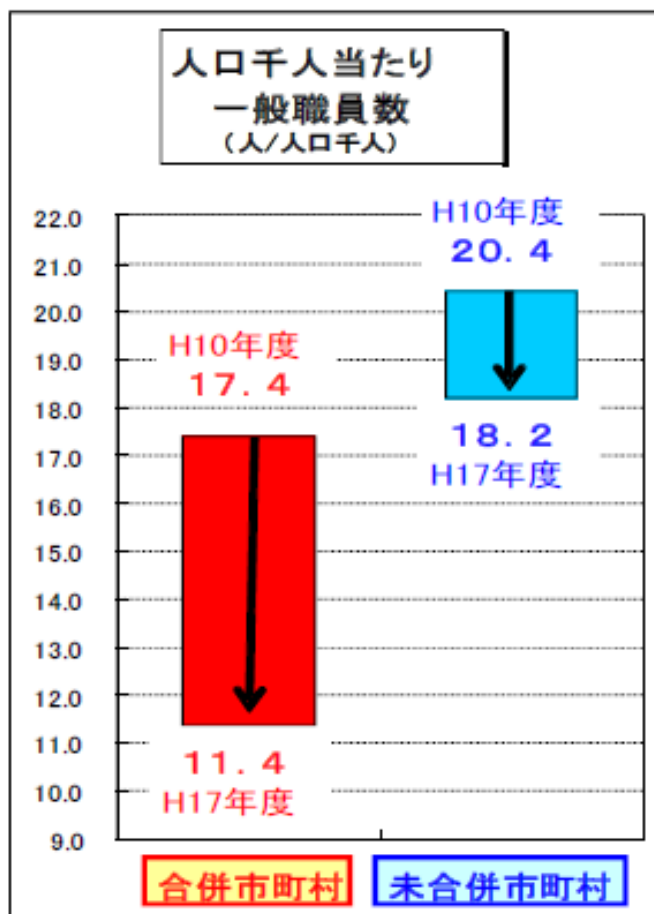
※ H20.4.15官報告示分までのもの。

※ 段階的に合併した市町村については、重複してカウントしていない。

※ H11.3.31の人口は、平成7年国勢調査人口による。H20.11.1の人口は、平成17年国勢調査人口による。

※ H11.3.31の面積は、「全国市町村要覧(平成10年度版)」の面積による。H20.11.1の面積は、「全国市町村要覧(平成19年度版)」の面積による。

人口1万人未満市町村（H11.3.31時点）における 人口千人当たり一般職員数の変化



(注)

<一般職員数>

- ・一般職員には、教育公務員及び臨時職員は含まれていない。

※合併市町村、未合併市町村に区分して単純平均

〔 全市町村平均(単純平均)
10年度:13.3 17年度:11.2 〕

この分析は間違いです

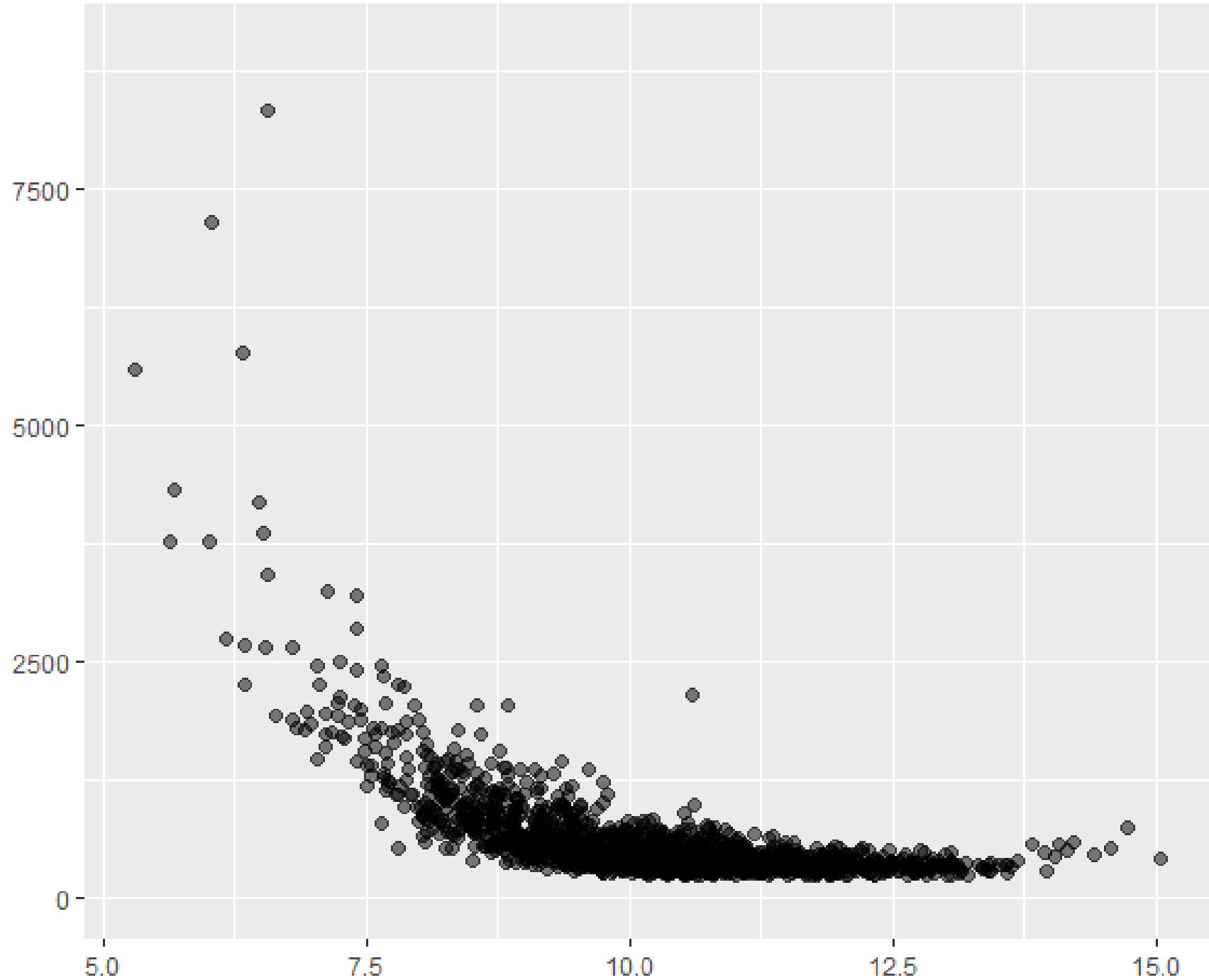
何がおかしいか考えてみましょう

テーマ：市町村合併の財政への効果

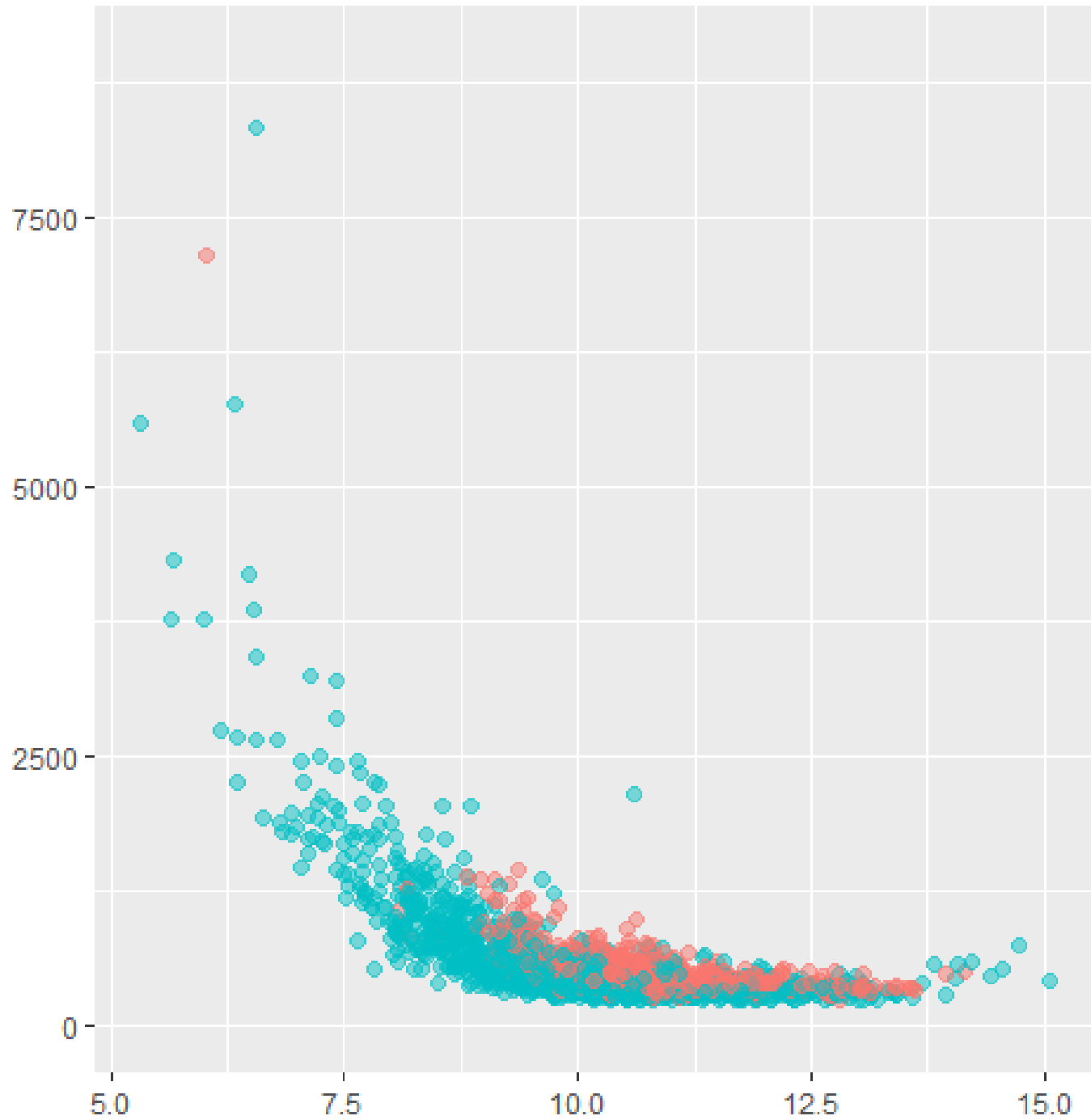
分析方針を決める

仮説	指標	分析方法

2001年一人当たり歳出総額



2001年一人当たり歳出総額

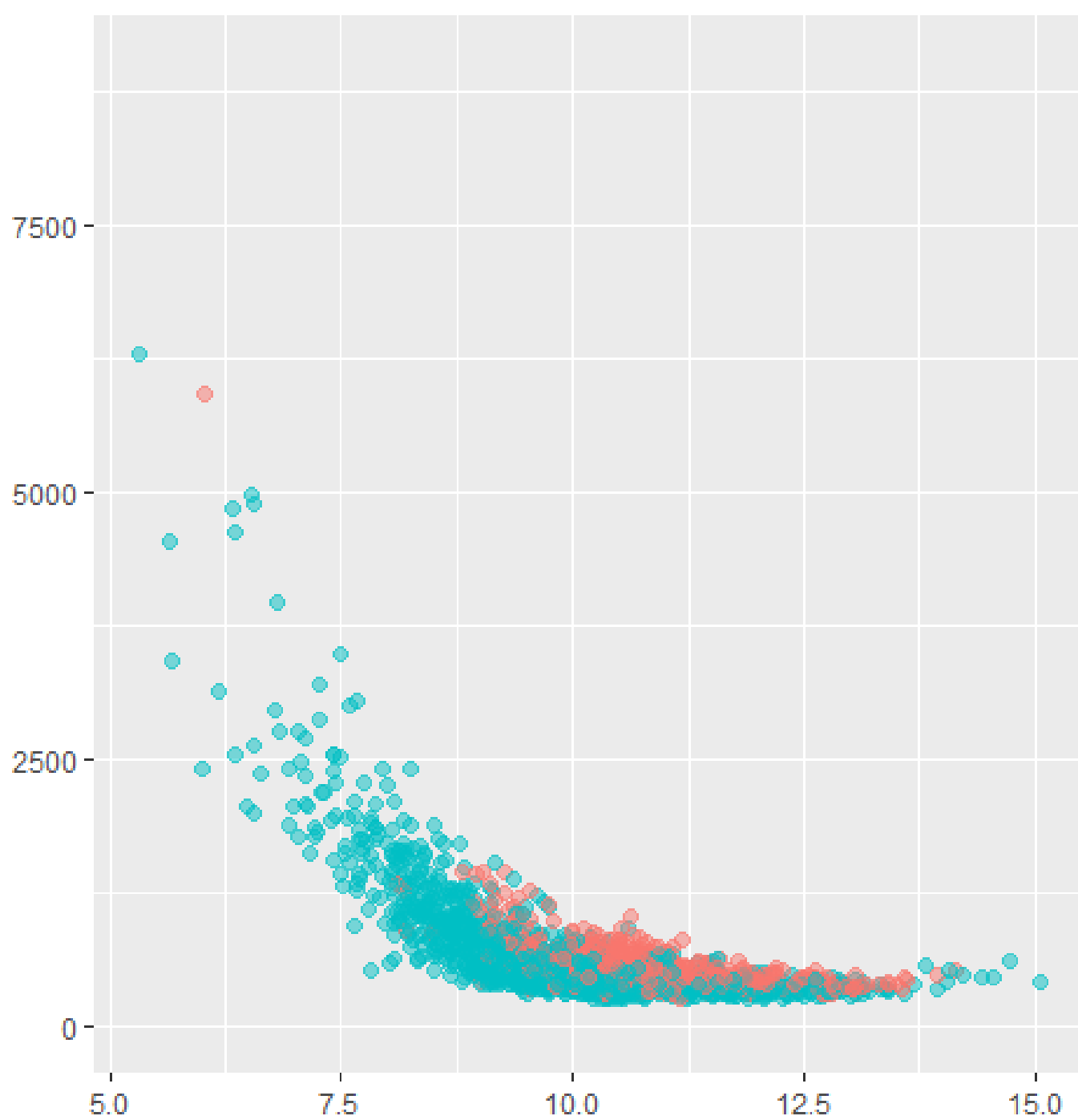


merge

- 合併あり
- 合併なし

2001年人口の対数

2015年一人当たり歳出総額



merge

- 合併あり
- 合併なし

2001年人口の対数

分析方針の決定

仮説	指標	分析方法
合併による「規模の経済」効果があるのではないか？	一人当たり歳出	①合併の前後、 ②自治体の規模ごとに、 ③一人当たり歳出の変化に違いがあったか

一人当たり歳出変化に対する要因分析

合併の効果は逆転！

2001～2008年：合併→非効率化

2008～2015年：合併→効率化

2008～2015年

しかし、効果はごくわずか

	2001～2008年	2008～2015年	2001～2015年
定数	-57.51*** (6.13)	89.95*** (5.32)	20.57*** (5.14)
合併の有無	41.68*** (9.80)	-39.37*** (8.64)	-20.02*** (7.49)
人口対数の変化	445.388*** (64.16)	-709.21*** (60.36)	-1229.78*** (159.53)
決定係数	0.04	0.09	0.04
サンプル数	1624	1624	1624

係数は有意だが、決定係数が小さすぎる。変数を増やす等の工夫が必要。

(注)***1%水準で有意、**3%水準で有意、*水準で有意

分析の結果

仮説	指標	分析方法
合併による「規模の経済」効果があるのではないか？	一人当たり歳出	①合併の前後、 ②自治体の規模ごとに、 ③一人当たり歳出の変化に違いがあったか

- (1) 合併による規模の経済効果は、合併当初はむしろ合併をした自治体ほど効率が悪化する状況が見られたが、2008年以降は効果が見られるようになった。
- (2) しかし効果の規模は小さい。

※ 合併特例債の期限(2019~2020年)が近づくとつれ、合併した自治体に財政の効率化が見られるかもしれない。

上質な田舎へ



西栗倉村

岡山県旧東栗倉村と西栗倉村の人口変化

